

SHIMANTO | 12

四万十町通信

2025.VOL.237

DECEMBER



食べきって示す最高の感謝。



嘘
はないで
すか?

「ごちそうさま」に



食べる前の最良の選択。

食べきって示す最高の感謝。「ごちそうさま」に

嘘はないですか？



給食の工夫と残食の現実

この町には3か所の給食センターがあり、児童生徒の成長を支えています。令和5年度から無償化となった給食は、安心・安全はもちろん、栄養教諭により子どもたちが食べられるよう献立も工夫されています。

例えば、食べやすい味付けに変えてみたり、苦手な野菜はみそ汁に入れたり、魚は焼きよりも揚げ物にしたり。しかし、それでも年間約3.6tの残食が出ているのが現実です。

食育と声掛けの相乗効果

給食センターでは、残食を減らすため、献立の工夫だけでなく、食育を通じた取り組みにも力を入れています。

毎月19日は「食育の日」として町内産の食材を学び、また「日本一周献立」では全国の地場产品を学び、その食材は献立にも取り入れられています。

また、教室では先生の「きれいに食べようね」という温かい声掛けで、配膳されたものを何とか食べようとする子どもたちの姿があります。

食べきろうとする姿がうれしい

給食では子どもたちの栄養やエネルギーを考え、家庭であまり食べない食材を取り入れています。

さまざまな要因があり、残食ゼロは容易ではありません。それでも、献立の工夫や食育、先生の温かい声掛けで、「苦手だけど頑張って食べきろう」としている子どもたちの姿を見ると、うれしくなります。



窪川給食センター
栄養教諭
稲田 亜沙美さん



1 早朝5時、窪川給食センターの生ごみ回収を終えた軽トラックが施設に到着
2 乾燥後、ビニール袋などのごみは手作業で取り除かれる
3 乾燥された栗や魚の骨
4 粉碎されて完成した生ごみ堆肥

給食と家庭の生ごみを資源へ

残食などで廃棄される生ごみを、堆肥として有効活用しようと活動するのが、「有機農業推進協議会」です。

平成15年からこの堆肥化事業を始め、週2回、窪川給食センターと、大正中部地域の約50軒の家庭から出た生ごみを回収しています。生ごみにEM菌（もみ殻や米ぬかなどを発酵させたもの）を混ぜ、生ごみ乾燥処理機を使用して、約8時間かけて堆肥が生産されます。

この堆肥は、いのうち衣料店（大正）で、一袋（10kg）五百円で販売中。子どもたちが頑張つたけど出てしまった残食や家庭の生ごみは、この活動を通して土に還り、再び農産物を育てる地域の循環を生み出しています。

「もったいないから、残食も生ごみも地域で生かす」

気温5度、上岡地域の生ごみ処理施設には、夜明け前から有機農業推進協議会の梶原美智さんと中原佳奈子さんの姿がありました。

回収してきた窪川給食センターの残食を見て「残食をただのごみにするのはもったいない」と中原さん。

お二人の丁寧な作業で、生ごみは堆肥という新たな資源へと変わります。「この堆肥使ったら、野菜の甘みも出て、色も良くなっておいしくできたっていう人もおるで」と笑う梶原さん。
残さない努力の一方で、残ったもので地域で生かす活動が行われています。



有機農業推進協議会
中原 佳奈子さん（左）梶原 美智さん（右）

毎日お茶碗一杯が廃棄される現実

何となく残したサラダ、食べきれないご飯、特売で余分に買ってしまった食品。

私たちの日々の食卓に潜むそんな「もったない行動」の積み重ねが、大きな問題を引き起こしています。

日本の食品ロス量は、年間で約472万tに上るといわれます。これは国民1人当たり、毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てていると同じ量です。

捨てられている食品の背景には、食に関わる方たちの想い、その食品で助かる方の姿があります。残す前に、捨てる前に、もつと言えば買う前に、もう一度だけ立ち止まって考えてみてください。

皆さんの食卓に並ぶ一皿には、農家をはじめとした生産者や家族の温かい想いが詰まっています。しかし、毎日口にする食事だからこそ、その感謝を忘れ、無意識に食べ残したり、まだ食べられるものを捨ててしまいませんか。

「食品ロス」は単なる身近な環境問題ではありません。

今、この町ではその「もったいない」行動が、「感謝」へと変わり始めています。すぐに捨てないこと、食べること。そんな小さな一歩が、誰かの助けとなり、生産者への最高の「感謝の表現」となっています。

生産者の想いを無駄にしない

私たちに届く食材の裏側には、生産者の深い愛情があります。

学校給食センターで使うきゅうりを育てている田井和広さん・徳美さんご夫妻。「子どもたちにとにかくおいしいきゅうりを食べてもらいたい。おいしかったら残さんろ。だから一番いいきゅうりを届けている」とお二人は話します。



この想いに応えるため、この町では「食べべきり」を最高の感謝とし、「無駄にしない」行動への取り組みが始まっています。

食育授業で子どもたちの意識と行動が変わる



食品ロスを減らす大切さをクイズ形式で学ぶ
食育授業。



株式会社アッシェ
高橋 彩華さん

「授業をきっかけに、家族で始めてほしい」

食品ロス削減には、家庭での取り組みが重要です。その点、小学生への授業はとても効果的で、子どもたちは学んだことをすぐに家庭で話し、家庭での取り組みへつながっていきます。

皆さんもスーパーにある「もぐもぐチャレンジ」などに、ご家族で参加してほしいです。



もぐもぐチャレンジ

年末年始も
「食品ロス削減」を
忘れないでねもぐ!



年末年始も、感謝の気持ちを食卓へ。

特に食品ロスが増えやすい年末年始。余分な購入、安易な廃棄は控えましょう。

- 忘年会や新年会では、「もったいない」を合言葉に積極的に料理を食べよう!
- 特売品や大容量パックの購入は、食べきれる量だけにしましょう!

お問い合わせ先 / 企画課 22-3124

©ASHE Inc.

「もったいない」を「ありがとう」に変える高校生の方

窪川高校では、令和3年度から家庭で余った未開封の食品などを回収し、支援の必要な方や福祉施設へ届ける「フードドライブ」という活動を行っています。生徒たちは町のイベントや文化祭などで専用ブースを設け、食品ロスの啓発活動に取り組んできました。廃棄される食品を減らし、生活に困窮する方々を支援する「支え合いの活動」が継続されています。

窪川高校では、令和3年度から家庭で余った未開封の食品などを回収し、支援の必要な方や福祉施設へ届ける「フードドライブ」という活動を行っています。生徒たちは町のイベントや文化祭などで専用ブースを設け、食品ロスの啓発活動に取り組んできました。廃棄される食品を減らし、生活に困窮する方々を支援する「支え合いの活動」が継続されています。

食品ロスを福祉へつなぐ力



ドライブと食品ロス啓発動画の制作に取り組んでいます。9月に町役場本庁舎で実施されたフードドライブでは、生徒が直接、しまんと町の食料は、生徒が直接、しまんと町社会福祉協議会へ届けます。そして社会協の職員が、生活困窮者の体調や生活環境に応じて、「一人一人のもとへ大切に届けています。



「無駄にしない」という感謝の想いを手作りの箱に詰め、福祉へと届ける瞬間。

企業・大学と連携の食育授業

この町の食品ロス削減の取り組みは、民間事業者や高知大学とも連携して進められています。令和2年度には、町と株式会社アッセ(本社／高知市)と高知大学の3者で「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結し、毎年さまざまな取り組みが行われています。今年度もその一環として、6月から7月にかけて町内9校の小学校で、「食品ロス削減」について学ぶ食育授業が実施されました。

授業で知る食品ロスの現実

「日本で一年間に発生する食品ロスの量はどれくらいでしょうか」。7月1日、食育授業を受けていたのは田野々小学校の3年生。(株)アッセのスタッフと高知大学生が先生役となり、子どもたちは食品ロスが環境に与える影響などをクイズ形式で学んでいます。どうして食品ロスを削減しないといけないのか考え、食品ロスの約半分が家庭から出ている事実を知ることで、子どもたちは真剣に自分たちにもできることを考え始めます。

のは全部食べる」「苦手なものでも少しづつ食べる」「食べられる量だけ取る」などの決意が書かれています。授業の最後には、食品ロス削減を啓発するキャラクター「もぐにー」が登場し、子どもたちは大喜び。



窪川高校 1年生
松田 美珠穂さん

「もったいない」が地域の「福祉」の力に変わる!

助け合いの取り組みが、もっと広がれば!

今回もたくさんの食料が集まつたことがうれしいです。家庭で食品を食べきれないときに、すぐに捨ててしまうのはもったいないです。

「食品ロス」について学んだことで、食品への視点が変わり、家でも「食べないなら必要な人に届けようか」って自然と話すようになりました。

「フードドライブ」という助け合いの取り組みが、窪川地区だけじゃなく、もっと広がっていけばいいなって思います。



しまんと町
社会福祉協議会
会長 牧野 利恵子さん

皆さんの想いを重く受け止め、大切に届ける

学校の授業で「食品ロス」について学び、「フードドライブ」という活動を通して、若い世代の方たちが「地域福祉」問題にまで関心を持ってくれていることがうれしいです。

現実に四万十町にもこういった活動を必要としている方がいます。「誰かの助けにー」という生徒の皆さんのが想いを重く受け止めています。

だからこそ私たちも、責任を持って必要な方にこの食品を大切にお届けしています。



優勝した両チームの選手たちもずぶ濡れ

小学生ソフトボール大会、雨天で両チーム優勝

「第12回山・川・海四万十町小学生ソフトボール交流大会」が10月11日、四万十町窪川運動場で開催されました。

大会には町内2チーム、町外5チームの7チームが出場し、2つのゾーンに分かれて予選リーグを戦いました。

決勝戦には、町内の選手も所属する「高知ジュニアソフトボールクラブ」と「池川子ども会」が進出。熱戦を繰り広げていましたが、試合途中から強まった雨により雨天コールドが採用され、結果は両チーム優勝となりました。



夫 田邊哲夫さんの特別叙勲、妻 田邊春代さんが受領

故 田邊哲夫さんが正六位旭日双光章を受章

本年6月26日に亡くなられた前四万十町議会議員の故 田邊哲夫さんが、特別叙勲の正六位旭日双光章を受章されました。

田邊さんは、昭和63年に大正町議会議員に当選して以来、市町村合併後も四万十町議会議員として33年の長きにわたり在職。在職中は、議会議員として地域の発展に献身的に尽くされ、町政の円滑な遂行、議会運営など多大に貢献されてきました。

10月8日に町長室で行われた伝達式では、中尾町長が伝達の口上を述べ、ご親族に勲記と勲章が手渡され、故人の功績を称えました。



大会3連覇の土佐女子中バレーボール部の皆さん

地元校も健闘、中学校バレー大会

「第35回四万十町窪川B&G海洋センター杯中学校親善バレー大会」が、10月19日にB&G海洋センターほか2会場で開催されました。

県内各地から24チーム246名の参加があり、四万十町からは、窪川・大正中学校の連合チームと十和中学校が出場しました。両校とも決勝トーナメント進出を目指し、懸命にボールを追いかけ、攻撃を仕掛けていましたが、惜しくも予選敗退となりました。激戦の末、優勝を果たしたのは土佐女子中学校で、見事大会3連覇を果たしました。



監査委員として地方自治の発展に貢献された田邊幹男さん

田邊幹男さんが町村監査功労者表彰を受賞

全国町村監査委員協議会主催の「令和7年度町村監査功労者表彰式」が10月16日、LINE CUBE SHIBUYA(渋谷公会堂)にて開催され、田邊幹男さんが表彰されました。

田邊さんは、7年以上にわたり代表監査委員として、長年培った豊富な行財政に関する知識をもって、適切な監査事務の執行に寄与していただいている。

この度の受賞は、監査委員として職務に精励され、地方自治の振興発展に貢献された功績に対し、全国町村監査委員協議会長から表彰されたものです。



【敬称略】		種目 男子 記録		種目 女子 記録		種目 男子 記録		種目 女子 記録	
50m	平野 楓真(十 和)	7秒5	走り高跳び	川口 純大(窪 川)	1m20	50m	友永 鈴奈(窪 川)	7秒9	走り高跳び
100m	平野 楓真(十 和)	14秒5	ソフトボール投げ	石田 彩翔(仁井田)	55m80	100m	本山 由結(田野々)	14秒9	ソフトボール投げ
60mハードル	石田 彩翔(仁井田)	10秒2	走り幅跳び	十和A	1分01秒7	60mハードル	本山 由結(田野々)	10秒6	走り幅跳び
走り幅跳び	芝野紋仁朗(仁井田)	3m83	400mリレー	(伊藤・山本・安藤・平野)		走り幅跳び	村越 瑠香(窪 川)	3m53	400mリレー

陸上記録会で小学校10校が交流

町内の全小学校合同の陸上記録会が、10月21日に窪川小学校で初めて開催されました。10校から5・6年生の児童約200名が、50m走や走り幅跳びなど男女別7種目に出演しました。

自己の記録に挑戦するとともに、学校間の交流を一層深めた機会となりました。



ボディシェイプ部門で優勝した伊賀三由紀さん(左から2人目)

伊賀三由紀さん 全日本ボディビル選手権2連覇

四万十町河内出身のボディビルダー伊賀三由紀さんが、9月14日に神戸市で開催された全日本ナチュラルボディビルディング連盟(ANNBBF)主催の全日本選手権で2連覇を果たしました。

10月24日には所属するトレーニングジム「鬼fit」(愛媛県鬼北町)の松尾浩充会長とともに町役場を訪れ、中尾町長に優勝を報告。伊賀さんは、「2連覇できたのは仲間のサポートがあったから。来年は海外大会にも挑戦し、ボディビルを通して四万十町をもっとPRしていきたい」と笑顔で語ってくれました。



初出場ながら準優勝した四万十高校の皆さん

石積み甲子園 四万十高校初出場で準優勝！

「第3回石積み甲子園」が11月2日、四万十町大井川の農地で開催されました。石積み甲子園は、高校生がチームで石積みの修復技術を競い合う大会で、今年は四国3県から四万十高校を含む5校が出場しました。

初出場の四万十高校は、2年生の自然環境コースの生徒を中心にチームを結成。7月から四万十川財団や地域の方の協力を得て活動を開始し、定期的に練習を重ねてきました。

当日、緊張や不安もある中、最後まで諦めず全員が力を合わせた結果、すばらしい石積みを完成させ、見事準優勝に輝きました。



町政への思いを込めて、真剣に質問する参加者

町政への関心深める「模擬議会」開催

四万十町議会主催の模擬議会が10月26日、町議会議場で開催されました。近年、議員のなり手不足が深刻化する中、議会活動への理解と関心を深めてもらおうと初めて企画されたものです。

一般質問形式を取り入れ、参加者らは質問通告書の作成から本番での質問まで、実際の議会さながらの流れを体験し、議員の役割や行政との関わりを体感していました。

参加者からは、「行政の取り組みが理解できた」「町政に関心を持つきっかけとなった」などの声が寄せられ、議会と町政への理解促進につながる機会となりました。

「学び」の質の向上を目指して

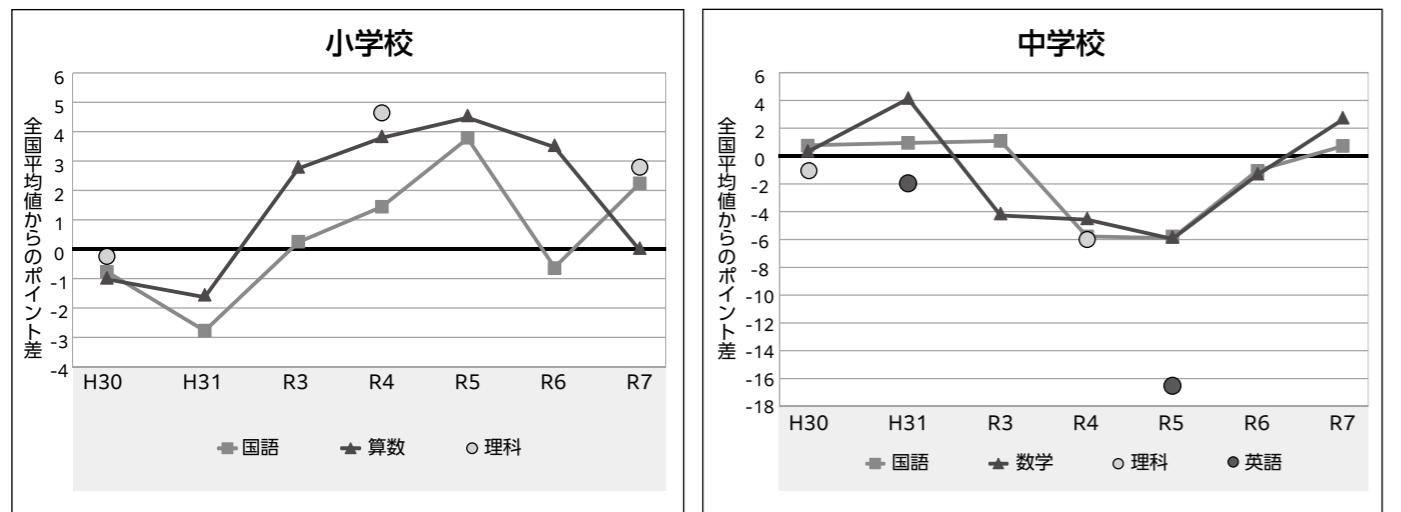
～令和7年度全国学力・学習状況調査結果から～

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握することを目的に、平成19年度から毎年、小学校6年生と中学校3年生を対象として全国一斉に実施されています。

本年度の教科に関する調査は、4月17日に国語・算数(数学)・理科(小学校)の3教科で行われ、中学校理科については文部科学省のCBTシステム(MEXCBT)を活用し、4月14日から17日の期間にオンライン方式で実施されました。また、生活習慣や学習環境などに関する質問調査は、4月14日から30日の期間で行われました。

四万十町では、「一人ひとりの『学び』を保障する」教育の実現に向けて、教育実践や教育環境の整備に取り組んでおり、全国学力・学習状況調査は、こうした取り組みの成果を検証するための指標の一つとして活用しています。

全国と四万十町の平均正答率の差



小学校

国語、算数、理科の平均正答率は、全国平均と同程度または全国平均を上回っています。

国語では、「書くこと」において、図表などを活用しながら自分の考えを分かりやすく伝える工夫がよくできていました。一方で、「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題がありました。

算数では、「図形」領域に課題が見られました。

理科では、「エネルギー」領域における「知識・技能」の面で課題が見られ、今後の学習の充実が期待されます。

子どもたちの家庭学習の状況

平日の家庭学習について、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問調査では、「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加したものの県平均を下回る結果となりました。

各中学校区では、基礎学力や家庭学習習慣の定着に向けた取り組みを進めており、ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実を図っています。授業外の学習においては、学んだことを活用したり探究したりできる内容の工夫や、家庭との連携を通じて、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを今後も継続していきます。



【お問い合わせ先】学校教育課 ☎ 22-2594



四万十町のうまいもんを求める方が来場



はじける笑顔と演舞で沿道の見物客を魅了



受賞者の皆さん、おめでとうございます

新米でもてなす「米こめフェスタ」大盛況

四万十町の食べるお祭り「米こめフェスタ」が11月2日、四万十緑林公園で開催されました。

町内外から多くの方が訪れ、毎年大人気のおにぎりの無料コーナーでは、イベント終了間際におにぎりが不足する場面も。

仁井田米の特売コーナーや量り売りコーナーも大盛況。その他にも、限定100食の四万十大正うなぎ丼や十和おかみさん市の郷土料理、地域の特産品のお汁などうまいもんが集結。四万十ポークの食べ放題コーナーもあり、来場者は各自に四万十町のうまいもんを堪能し大満足となったようでした。

踊りとミュージカルで盛り上がった「台地まつり」

50回目の節目となった「台地まつり」が、11月8日・9日の2日間、窪川地区の市街地で開催されました。

初日の鳴子踊りには、本場よさこい祭りにも出場する8つのゲストチームが参加し、沿道に集まった見物客を盛り上げる中、町内チームも元気いっぱいの笑顔と踊りを披露してくれました。雨天となった2日目は、多くの方が楽しみにしていた「谷干城ミュージカル」が窪川小学校での開催となりましたが、迫力ある演技と歌声で訪れた方を魅了していました。その他の会場も大いに盛り上がった2日間でした。

100点の作品が彩る「高南台地美術展」

四万十町農村環境改善センターで11月7日から13日までの期間、「第62回高南台地総合美術展覧会」が開催されました。

今年は、出展者数70名、出展作品数100点と盛大な展覧会となり、開催期間中は687名の方にご来場いただきました。

受賞者は次のとおりです。

【第62回 高南台地総合美術展覧会 受賞者一覧(敬称略)】

絵画の部	特選	特選	褒賞	褒賞	奨励賞	奨励賞	新人賞
	選	選	選	選	選	選	選
青木村	特	特	褒	褒	奨	奨	新人
西村	特	特	褒	褒	奨	奨	賞
杉本	選	選	選	選	選	選	賞
吉川	選	選	選	選	選	選	賞
又川	選	選	選	選	選	選	賞
石川	選	選	選	選	選	選	賞
木村	選	選	選	選	選	選	賞
谷脇	選	選	選	選	選	選	賞
市川	選	選	選	選	選	選	賞

書道の部	特選	特選	褒賞	褒賞	奨励賞	奨励賞	新人賞
	選	選	選	選	選	選	選
竹村	特	特	褒	褒	奨	奨	新人
吉岡	特	特	褒	褒	奨	奨	賞
岡尾	選	選	選	選	選	選	賞
荒廣	選	選	選	選	選	選	賞
横	選	選	選	選	選	選	賞
細	選	選	選	選	選	選	賞
吉村	選	選	選	選	選	選	賞

書道の部	特選	特選	褒賞	褒賞	奨励賞	奨励賞	新人賞
	選	選	選	選	選	選	選
由美	特	特	褒	褒	奨	奨	新人
康	特	特	褒	褒	奨	奨	賞
春	選	選	選	選	選	選	賞
紫	選	選	選	選	選	選	賞
翠	選	選	選	選	選	選	賞
紅	選	選	選	選	選	選	賞
谷	選	選	選	選	選	選	賞
雲	選	選	選	選	選	選	賞
秋	選	選	選	選	選	選	賞
泉	選	選	選	選	選	選	賞





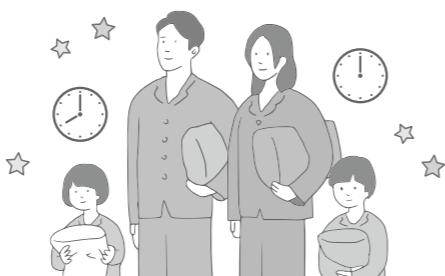
みんなの睡眠は大丈夫?



睡眠は、「免疫を高める」「代謝を促す」「病気・けがを治す」「ストレスで傷ついた神経を修復する」などの効果があります。

あなたの必要睡眠時間

年齢	必要な睡眠時間
3歳～就学前まで	10～13時間
小学生	9～12時間
中学生	8～10時間
成人	6時間以上



近年、大人も子どもも生活リズムが夜型になる傾向にあります。

夜遅くまでインターネットやゲームをしてしまうこともあります。スマートフォン画面などから放射されるブルーライトは目の奥まで届く強い光で、睡眠ホルモンと呼ばれるメラトニンの分泌を抑え、睡眠の質を下げてしまいます。

特に、子どもにとって寝ている間に分泌される成長ホルモンは、骨や筋肉の成長に欠かせないものです。成長ホルモンが減り成長が遅れるような状態が続くと、食欲不振、注意力や集中力の低下、倦怠感などにつながり、生活に影響が現れます。

不眠を改善するためにできること

- いつもと同じ時間に起きることで体内時計（内部環境を一定に保とうとするもの）が整う
- 朝起きて太陽の光を浴びることで脳が活性化し、メラトニンが次の睡眠へのリズムを整える



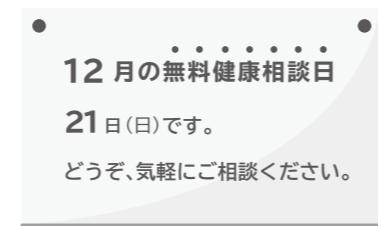
お問い合わせ先 健康福祉課 ☎ 22-3115

冬の感染症に備えて



すっかり寒くなりましたね。冬になると気をつけなければいけないのがインフルエンザや新型コロナウイルス感染症などの流行です。空気が乾燥しやすくなる気温が下がる冬は細菌やウイルスが好む環境となり、感染力が強くなります。また、冬は免疫力が低下しやすく、体調を崩しやすくなります。

感染症を予防するには、咳エチケット（くしゃみや咳が出るときはマスクを着用する）や手洗いなど、普段からの対策が重要です。一人一人が予防し、感染を広げないようにしましょう。



【お問い合わせ先】
調剤薬局技術センター
薬剤師 藤田 玲奈 ☎ 22-1000

子育て通信

内 容	日 時	場 所	お問い合わせ
赤ちゃん相談	12月11日(木) 令和8年 1月 7日(水)	9:30～11:30 10:00～12:00	十和地域子育て支援センター 窪川地域子育て支援センター
	12月17日(水)	対象者に個別通知	四万十町役場本庁東庁舎

健康検査・がん検診

内 容	日 時	場 所	お問い合わせ
結核・肺がん検診	12月11日(木)	午前中巡回	興津～東又～仁井田～松葉川～立西～役場

子どもの骨折が増えています

50年前と比べて、残念なことに骨折する子どもが増えています。その原因の一つに食生活や生活環境の変化があるといわれています。本来、子ども時代は骨の基礎をつくる大切な時期。男性は20歳、女性は18歳ごろ人生で骨量が最も多くなるといわれています。骨量のピークをいかに高めるかが将来の骨の健康を維持するポイントです。



からだにいいはなし



若い世代から骨コツと
貯骨のスメ



貯骨のための3つのポイント

10代のうちにできるだけ強い骨を育てて、骨量を貯めておく骨の貯金「貯骨」をしておくことで将来、骨粗しょう症になるのを防ぐことにもつながります。それには食事、運動、睡眠の3つが大切です。

①食事 1日3食、栄養バランスの良い食事が基本です。また、成長期に無理なダイエットをすると栄養不足になり、骨が十分につくれません。カルシウムの吸収を妨げるリンを多く含むインスタント食品やスナック菓子などの加工品の摂り過ぎにも注意が必要です。



②運動 運動によって骨に負荷をかけると、それが刺激となり、骨をつくる働きが促されます。縄跳びなどのジャンプや素早い動きをする運動が効果的です。



③睡眠 お子さんは午後10時までは寝かせるようにしましょう。午後10時から午前2時までは成長ホルモンの分泌が活発になる時間帯といわれています。また、日光に当たると、カルシウムの吸収を助けるビタミンDが体内で合成されます。日中に外での活動時間を増やすことが強い骨をつくることにつながります。



食事、運動、睡眠の全てを気にすることは難しいように思いますが、適度な運動は質の良い睡眠や食欲増進につながります。

ぜひできるところから始めてみてください。

四万十町国保大正診療所 山本翔平 大川剛史

知っておきたい 年金の受け取り方

～繰り上げ・繰り下げ受給～

国民年金(老齢基礎年金)は、原則65歳から受け取ることができますが、希望すれば早め(繰り上げ)または遅め(繰り下げ)に受け取ることもできます。

それぞれにメリット・デメリットがありますので、ライフスタイルに合わせて選択することが大切です。

繰り上げ受給(60~64歳の間に受け取り開始)

早くから年金を受け取れる方法です。ただし、65歳から1か月早めごとに0.4%ずつ減額された金額を生涯にわたって受給することになります。

例 65歳からの年金が月6万5千円の場合
→ 60歳から受け取ると 約5万円／月(24%減額)になります。

繰り下げ受給(66~75歳までの間に受け取り開始)

受け取りを遅らせると、1か月遅らせごとに0.7%ずつ増額された金額を生涯にわたって受給することになります。

例 65歳からの年金が月6万5千円の場合
→ 75歳から受け取ると 約12万円／月(84%増額)になります。

大切なのは
“自分に合った選び方”

損得だけでなく、「いつまで働くか」「貯蓄や家族の支え」「健康状態」などを踏まえて考えるのがポイントです。繰り上げ・繰り下げ受給も、一度選択すると原則変更できません。注意点もありますので、気になった方は年金事務所へ相談を!



お問い合わせ先

高知西年金事務所 ☎ 088-875-1717
※お問い合わせの際は、基礎年金番号の分かる、年金手帳や年金証書をご用意ください。
町民課 ☎ 22-3117
大正町民生活課 ☎ 27-0112
十和町民生活課 ☎ 28-5112

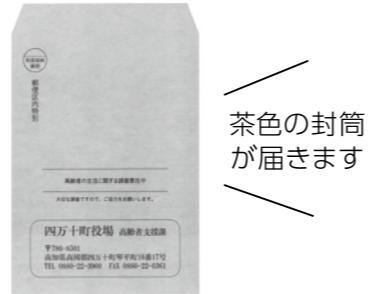
高齢者の生活に関する調査を実施します

「高齢者の生活に関する調査」を、令和7年12月1日現在で65歳以上の方(要介護1~5の認定を受けている方を除く)を対象に実施します。

調査結果は、今後の高齢者施策を検討していく上で、貴重な基礎資料となります。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

なお、調査票は12月下旬に発送する予定です。

お問い合わせ先 高齢者支援課 ☎ 22-3900



お知らせ

○休日在宅当番医

月 日	医院名	電話番号
14(日)		
21(日)		
12 28(日)		
月 29(月)		
30(火)		
31(水)		
1(木)		
2(金)		
1 3(土)		
月 4(日)		
11(日)		
12(月)		

くぼかわ病院

☎ 22-1111

!(休日水道修理当番は窪川地域のみです。
大正・十和地域の方は各地域振興局にお問い合わせください。
大正 地域振興課 ☎ 27-0111
十和 地域振興課 ☎ 28-5111

令和7年度 入札結果(令和7年10月実施分)について

入札結果は、町ホームページにて確認することができます。
また、右の二次元コードから読み込むことも可能です。



クールチョイス

脱炭素社会の実現のため、一人一人のライフスタイルの転換が重要です。宅配サービスは日時指定・置き配・コンビニ受け取りなどを活用し、できるだけ1回で受け取りCO₂削減につなげましょう!

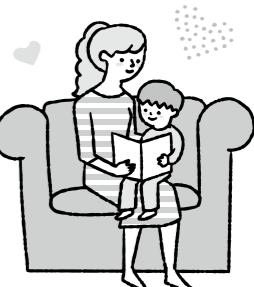
【お問い合わせ先】環境水道課 ☎ 22-3119

年末年始の図書館休館日

町立図書館は、年末年始は下記のとおり休館します。一人20冊まで借りることができますので、年末年始にゆっくり読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。なお、本館、大正分館、十和地域振興局の返却ポストは、休館中もご利用いただけます。
※本館の返却ポスト位置が、入り口横に変更しています。

休館期間 12月28日(日)~1月5日(月)

お問い合わせ先 四万十町立図書館 本館 ☎ 22-5000 大正分館 ☎ 27-1194



事業用の償却資産、申告は忘れずに！

お知らせ

毎年1月は償却資産の申告月です。
令和8年1月1日時点において、事業用の償却資産を所有している場合は、申告が必要です。

●償却資産(例)

商品陳列ケース、レジスター、看板、厨房機器、製造機械、土木建設機械、舗装路面、外構工事、太陽光発電設備、農業用設備など

●提出期限

令和8年2月2日(月)まで

※申告の必要な方には12月中旬に申告書を送付しますが、新たに事業を開始したなど、申告書が必要な場合は税務課資産税係までご連絡ください。(町ホームページからダウンロード可)

※閉鎖・解散・移転などした場合も、その旨を記載して償却資産申告書の提出をお願いします。

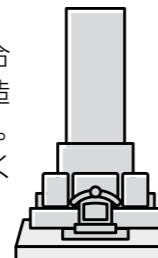


お問い合わせ先 税務課 ☎22-3116

墓地の移転・新設には、保健所の許可が必要

高齢化が進む中、管理が大変な山間のお墓を自宅近くへ移す方が増えています。

自己所有の土地であっても、墓地を新設する場合は許可が必要です。また、許可を得ずに墓地として造成したり、分譲することは法律で禁止されています。許可申請を希望する方は、右記までお問い合わせください。



お問い合わせ先

須崎福祉保健所 ☎0889-42-2004
環境水道課 ☎22-3119
大正町民生活課 ☎27-0112
十和町民生活課 ☎28-5112

国勢調査ご協力ありがとうございました！

この度実施しました「令和7年国勢調査」につきましては、大変お忙しい中、調査へのご協力とご理解をいただき、ありがとうございました。

ご回答いただいた内容は、今後、集計作業が進められ、結果が公表されます。当町では、その結果をもとにまちづくりに関する各種計画や今後の行政サービスなどに役立てていきます。

引き続き、各種統計業務へのご理解・ご協力をよろしくお願いします。



お問い合わせ先 企画課 ☎22-3124

土地・家屋の変更是早めに税務課へ！

お知らせ

固定資産税は、毎年1月1日に土地、家屋などを所有している方に課税される税金です。

令和7年中に土地の利用状況に変更があった方、また家屋の新築や取り壊しが完了する方で税務課の調査がお済みでない方は、令和8年2月2日(月)までに税務課まで届け出をお願いします。

届け出のあった土地・家屋については、後日、税務課職員が確認にお伺いします。



お問い合わせ先 税務課 ☎22-3116

固定資産税の負担軽減！過疎法に基づく課税免除

お知らせ

四万十町では、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」および「四万十町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に関する条例」に基づき、下記の対象要件の全てに該当する場合は固定資産税課税免除の適用が受けられます。

【対象要件】

- ・令和9年3月31日までに設備を新設または増設した方
- ・青色申告をしている方
- ・要件判定に関わる取得価格の合計が500万円を超える事業用資産(建物およびその附属設備・償却資産)を新設または増設した方(土地取得費は要件に含まれません)

(1)対象となる事業

- ・製造業
- ・農林水産物等販売業
- ・旅館業(下宿営業を除きます)
- ・情報サービス業

(2)免除対象資産

- ・土地(直接事業の用に供する部分のみ)
※取得日の翌日から起算して1年以内に、建物が着工された場合に限ります。
- ・家屋
- ・償却資産(「機械および装置」に限ります。旅館業の用に供する資産は除きます。)

(3)免除期間

固定資産税が課されることとなった年度以降、3か年免除されます。

(4)申請期限

本年度の申請は令和8年2月2日(月)までに申請してください。

お問い合わせ先 税務課 ☎22-3116

義務化された相続登記、3年内に申請を！

お知らせ

令和6年4月1日から相続登記が義務化されました。相続(遺言含む)により不動産を取得した相続人は、所有権を取得したことを知った日から3年内に相続登記の申請が必要です。

なお、令和6年4月1日より以前の相続についても、未申請のものは全て申請の対象となります。

※正当な理由なく申請を怠ったときは、10万円以下の過料の適用対象となりますのでご留意ください。

相続登記の申請は、登記申請書を作成し、戸籍(除籍)や住民票など複数の書類を取得していただく必要があります。

登記申請手続きの中でも非常に困難な登記ともいわれていますが、大変重要な手続きとなりますので、ご理解とご協力をお願いします。

相続登記の手続きを依頼する際は、司法書士にお問い合わせください。ご自身での手続きを希望する際は、お近くの法務局(登記手続案内を予約制で実施中)へお問い合わせください。



お問い合わせ先

高知県司法書士会総合相談センター
☎088-825-3143
高知地方法務局 須崎支局
☎0889-42-0374

四万十町出会い応援センターてとてと

【相談受付】毎週金曜日 10:00～18:00
■要予約 / 45分 ※夜間・土日希望の場合はご相談ください。



四万十町樟山町3-7四万十町農村環境改善センター内
☎090-5405-1010(平日/10:00～18:00)
✉tetoteto@shimanto.tv
[担当] 特定非営利活動法人 LIFE:井上義之

出会いをサポート！

[登録について] ▶ 対象者/18歳以上独身 ▶ 必要書類/身分証明書等・独身証明書等(戸籍抄本)・写真1～4枚(証明写真不可)





四万十町合併20周年記念イベント

しまんとmusic festival

四万十町合併20周年を記念して、香川県善通寺市所在の陸上自衛隊第14音楽隊をお招きし、窪川中学校吹奏楽部・大正中学校および四万十高校音楽部(FAIRY PITTA JAZZ ORCHESTRA)とのコラボレーションイベント「しまんとmusic festival」を、11月9日に窪川四万十会館で開催しました。

イベント前日には、音楽隊の皆さんによる生徒への演奏指導も実施され、短い時間でしたが、生徒たちは目を輝かせて熱心に取り組んでいました。当日の演奏は4部構成で、各学校の演奏の後、第14音楽隊、そして合同演奏が行われ、ホールを訪れた観客はその勇壮な演奏に魅了されました。



四万十町合併20周年記念式典



平成18年に旧3町村が合併して誕生した「四万十町」は、令和8年3月20日に20周年を迎えます。この20年のあゆみを振り返り、未来へ向けた新たな出発点となることを祈念し、記念式典を開催します。

令和8年
3/20(金・祝)
9時30分~12時

会場 窪川四万十会館(四万十町香月が丘8-102)
内容 式典行事、町民表彰、記念映像上映、アトラクションなど

【お問い合わせ先】総務課 ☎ 22-3111

「町民表彰」「名誉町民表彰」の候補者募集

町民の方で、産業、教育、文化、政治、公共福祉などに寄与された方の「町民表彰」と、町民以外の方で、特に功労や功績のある方の「名誉町民表彰」を、記念式典にあわせて行いますので、ぜひご推薦ください。



冬本番!水道管の破裂にご用心

気温が氷点下になると、水道管が凍り、破裂することがあります。屋外で次のような場所の水道管は凍りやすいので、早めに凍結防止の準備をお願いします。

- むき出しになっている水道管
- 日の当たらない場所の水道管
- 風当たりの強い場所の水道管

水道管の凍結防止方法



水道管を保護する



少しだけ水を出しておく

「むき出し」になっている水道管や蛇口に、保温材・古い毛布・布切れなどを巻き付け、その上からビニールテープなどを巻いて凍結を防止してください。

また水道メーターの凍結防止のためには、不要となった布類や発砲スチロール片などを濡れないようにビニール袋に詰めて、水道メーターの周りに敷き詰めてください。その際は、水道メーターが検針できるようにしてください。

屋内では、夜間、水が糸を引く程度に蛇口を開けておくと効果的です。この場合、水道料金が発生するので、お風呂などに貯めて有効にお使いいただくことをお奨めします。(給湯器をお使いの場合は、給湯器のスイッチを切つてから、お湯の蛇口を同様に開けてください。)

水道管が凍結した場合は、凍った部分にタオルや布などを被せて、その上からゆっくりと「ぬるま湯」をかけてください。なお、蛇口を開けてもすぐに水が出ない場合も、蛇口は開けたままにせず、必ず閉め、自然に溶けるのを待ってください。

※熱湯を急にかけると、水道管や蛇口が破裂することがありますので、ご注意ください。

※鉄製の水道管をお使いの方は、凍った水道水が溶ける際に内面の鉄さびが剥がれて水が赤くなる場合があります。これは一時的なものですので、しばらく水を出してからご使用ください。

お問い合わせ先 環境水道課 ☎ 22-3119



年末年始、可燃ごみ収集日を確認!持ち込みなら早めのご来場を

右記のとおり年末・年始の収集を実施します。
必ず8時30分までに出してください。

クリーンセンター銀河について

ごみを直接持ち込みされる場合は、12月30日(火)が年末最終日です。

注)年末は特に混雑する場合があるので、持ち込む前の分別ができるだけ早めのご来場をお願いします。

受入時間:午前9時~午後4時まで
(正午から午後1時までは休み)

◎年始は令和8年1月5日(月)より、通常どおり行います。



【お問い合わせ先】

環境水道課 ☎ 22-3119
大正町民生活課 ☎ 27-0112
十和町民生活課 ☎ 28-5112

クリーンセンター銀河について	(窪川・大正・十和地区) 月・木曜日	(窪川・十和地区) 火・金曜日
ごみを直接持ち込みされる場合は、12月30日(火)が年末最終日です。	通常収集	×
注)年末は特に混雑する場合があるので、持ち込む前の分別ができるだけ早めのご来場をお願いします。	×	通常収集
受入時間:午前9時~午後4時まで (正午から午後1時までは休み)	×	×
◎年始は令和8年1月5日(月)より、通常どおり行います。	特別収集	×
	30日(火)	特別収集
	31日(水)	×
	1月 1日(木)	×
	2日(金)	×
	3日(土)	×
	4日(日)	×
	5日(月)	通常収集
	6日(火)	通常収集

「四万十町住生活基本計画」改定に関する意見公募

募集

四万十町では国と県の「住生活基本計画」に基づき、住生活の安定と向上に関する目標や基本的な施策を定めた「四万十町住生活基本計画」を平成24年3月に策定しています。

この度、計画期間満了に伴い令和8年度から10年間の計画改定を行いますので、町民の皆さまからのご意見を募集します。

●公募期間 令和8年1月5日(月)～1月26日(月)

●資料の閲覧方法

(1)閲覧所での閲覧

①本庁1階閲覧所

②大正地域振興局1階閲覧所

③十和地域振興局1階閲覧所

④興津出張所閲覧所

(2)町ホームページでの閲覧

●意見の提出方法

(1)意見箱による投函

(2)郵送…〒786-8501 四万十町琴平町16-17
四万十町役場建設課宛

(3)FAX…22-5040

(4)直接提出…建設課へお越しください

(5)電子メール…109040@town.shimanto.lg.jp

お問い合わせ先 建設課 ☎22-3120

システム更新でコンビニ交付、一時休止

お知らせ

四万十町では、マイナンバーカードを利用して、全国のコンビニエンスストアで住民票の写しと印鑑登録証明書の交付サービスを提供していますが、ネットワーク機器の更新作業のため、下記の日程でサービスを一時休止します。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力をお願いします。

●休止期間(予定)

- 令和8年1月2日(金)～1月17日(土)
- 令和8年2月6日(金)23時～2月9日(月)6時

※作業の進捗状況によって、休止期間が前後する場合もあります。

最新情報は四万十町ホームページでご確認ください。

●休止する証明書

- 住民票の写し
- 印鑑登録証明書



四万十町HP

お問い合わせ先 町民課 ☎22-3117

冬の道路の通行は、出発前の準備をしっかりと！

お知らせ

四国の道路でも、冬期は積雪や凍結によりスリップ事故や車の立ち往生が発生し、重大な事故・渋滞につながることがあります。

お出かけ前の情報収集と冬用タイヤやチェーンの準備をお願いします。

四国の雪道情報はこちらから

●パソコンから

<https://www.skr.mlit.go.jp/road/toukikoho/index.html>

●携帯電話、スマホから



お問い合わせ

●道路緊急ダイヤル(無料、24時間受付)

#9910

●LINEによる通報はこちらから



お問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局
道路部道路管理課

☎087-851-8061(代表)



存続か統廃合か。

高校の未来を左右する 重要期間がスタート

高校存続へ、
達成すべき目標値

県は本年3月、令和7年度からの8年間を対象とする「県立高等学校振興再編計画」を策定・公表しました。前期計画(令和7年度～令和9年度)では、地元高校の存続に向け、窪川高校と四万十高校それぞれに努力目標が設定されています。

窪川高校 入学者数41人以上、地元からの進学率50%以上

四万十高校 入学者数25人以上、地元からの進学率70%以上

この目標を達成するため、町では学校・地域と連携し、魅力化・特色化に向けたアクションプランを策定。目標が達成できない場合は、分校化や統廃合などを含んだ内容が後期計画に反映される、極めて重要な課題です。

部活動の支援と地域連携の学び

アクションプランでは、学校と町が一体となり、地域に愛され、選ばれる高校を目指した取り組みを展開します。

窪川高校では、高校魅力化の柱として、野球部の復活に向けた協議を進めています。野球部の再開は、生徒確保や学校生活の活性化につながるだけでなく、地域全体に大きな活気と好影響をもたらすものと期待されています。来年4月から活動できるよう、高校や県教育委員会などと現在調整中です。

また、10月24日には野球部後援会準備会が設立され、活動の周知や地域の機運醸成、寄付金集めなど、物心両面での支援を行ってきます。

四万十高校では、地域との連携をさらに強化します。

地域課題探究の授業では、全校生徒がふるさと納税の返礼品の商品開発を行うなど、町の課題解決に積極的に取り組んでいます。来年度は自然環境コースを中心に、二ホンミツバチの養蜂や採蜜を学び、環境学習や商品開発への展開も計画しています。

未来を左右する重要期間

高校では、今年度から新しい入試制度であるフロンティア募集を開始し、例年より早い1月中に合否が判明するため、来年度の生徒数確保に早期に目処が立つ見込みです。また、町外からの入学希望者に対する住居や活動環境の充実に向けても対応を進めています。

令和9年度までの前期計画は、地元高校の存続を左右する極めて重要な期間です。

高校の存続は、地域の未来に直結する重大な課題であり、町民一丸となって振興の機運を醸成し、目標達成を目指していきます。

今後の高校振興に向け、皆さまの深いご理解と引き続きのご協力をよろしくお願いします。

お問い合わせ先
四万十町人材育成推進センター ☎22-3163



脇山さとみ 作陶展

イベント

大阪を拠点に活動する陶芸作家、脇山さとみさんの作陶展を開催します。器に描かれる独特な絵や柄、手触りからは優しさ、不思議な静けさ、ぬくもり、ユーモアが感じられ、見るほどにその魅力に引き込まれます。3回目の開催となる今回は、新年にふさわしい干支柄の器なども販売します。冬をあたためる陶器の器たち。ぜひ、ゆっくりご覧ください。

●開催期間 令和8年1月9日(金)~1月28日(水)
9:00~16:00

●場所 古民家カフェ半平

●参加費 入場無料



お問い合わせ先

古民家カフェ半平 ☎22-2101

LINE

地域の情報や災害情報を配信

YouTube

町の取り組みや地域資源映像を配信

Instagram

#しあわせしまんとせいかつで町内の魅力を配信

note

町内の飲食店や地域の取り組みを配信

四万十町の魅力を発信中！

まるやま み ゆ り あ 弘瀬

丸山 美夢さん・璃彩さん

令和5年5月25日・令和7年4月29日生まれ

あなた達はパパとママの大事な宝物です♡

(満矢・彩樹より)

3歳頃までのお子さまを募集しています！応募はこちらから →

[お問い合わせ先]
企画課 ☎22-3124

新規就農者を応援！支援制度のご紹介

お知らせ

四万十町では、新たに農業経営を開始する新規就農者の方を応援しています。特に、就農計画に基づき一定の所得(経営開始5年目までに農業所得おおむね250万円以上)を目指す農業者については、「認定新規就農者」として位置づけ、就農の段階に応じたさまざまな支援制度を受けることができます。

有利な支援制度を活用して就農を目指してみませんか。

就農に向けた研修を受ける場合		
事業名	事業概要	補助金額
新規就農者育成総合対策 (就農準備資金)	就農予定時の年齢が49歳以下で、地域農家などの下で研修し、独立または経営継承などを目指す場合	最大150万円／年 1年～最長2年間 ※別途、年齢・研修品目により上乗せ助成あり。
後継者就農促進事業 (研修支援区分)	3親等内の親族の経営継承を希望する49歳以下の方が、基礎研修を受講する場合	10万円／月 3ヶ月～最長1年間
就農後に対する支援金		
事業名	事業概要	補助金額
新規就農者育成総合対策 (経営開始資金)	新たに経営を開始する49歳以下の就農者への支援	150万円／年 経営開始3年目まで
後継者就農促進事業 (経営開始支援区分)	3親等内の親族の経営を49歳までに、経営継承を行う就農者への支援	120万円／年 経営開始2年目まで
壮年就農給付金	新たに経営を開始する50歳以上65歳未満の就農者への支援	150万円／年 経営開始1年目まで
農業後継者支援給付金	農業経営を親族又は第三者から継承して新たに就農する65歳未満の農業後継者を支援	(親族から継承) 100万円 (第三者から継承) 150万円 ※継承前後に給付

経営発展に向けた支援

農業用機械・施設整備費に対し、購入経費の**1/2以内**を助成。(個人通算**500万円**を上限)

※事業の受給に際してヒアリングにより要件の確認、面接審査を実施します。
要件、審査結果などの状況により事業を受けられない場合がありますので、ご了承ください。

新規就農相談会を開催します！



高南地域農協議会では、新たに就農をお考えの方を対象に相談会を開催します。就農前に農業について学ぶ研修事業や経営開始後に受けられる支援制度について、関係機関が同席の上、個別相談を行います。

日 時 令和8年1月9日(金) 13:30～(予約制)

場 所 四万十町役場東庁舎2階 多目的小ホール

申込・お問い合わせ先

農林水産課 ☎22-3113

※参加をご希望の方は、12月25日(木)までに右記の二次元コードから事前申込をお願いします。
※農林水産課窓口でも随時相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。



山崎 規久夫さん



待ちかねちゅう人がおる

志和の名物といえば伊勢エビ。漁は10月から12月にかけて最盛期を迎える。漁港に並ぶブルーシートの小間で、オレンジ色の建網^{たてあみ}が揺れている。「時間があつたら修繕せなかん。こればあしんどい仕事はない」。山崎規久夫さんか網を手に苦笑いする。

建網漁は、水深15~30メートルの海底にカーテン状の網を張り、夜行性の伊勢エビが引っかかるのを待ち、早朝に水揚げする。一回の漁で網のあちこちが破れてしまうため、その都度、新しい網糸で補修しなければならない。長さ数百メートルに及ぶ建網を、延々と繕う作業が続く。「大変やけど、エビがようけかかったら、そらうれしいわね!」

志和で生まれ育った山崎さん。父は当時あった大敷組合の漁師だった。子どもの頃は、山の上に掲げられた青い旗が集落に大漁を知らせた。「浜にブリがどっさり揚がりよった」と懐かしむ。

かつてはブリや伊勢エビのほか、モジャコ（ブリの稚魚）を育てて出荷する漁師もいたという。山崎さんが漁港に目



町にはこんな waza も
タイピングが得意！ 久原 陸さん 十和小学校4年

先生の勧めで2年生からタイピングの練習を始め、めきめきと上達。高知県教育委員会が開催する「高知家タイピング選手権」(小学校中学年の部)では10位に入賞した。「スコアが上がっていいのがうれしい」。さらに上位を目指してキーボードに向かう。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します
ちょいwaza!!は随時募集



四十町當塾「じゅうく。」



じゅうぶんとく

町営塾「じゅうく。」
【開室】平日16:30-20:30

塾に関するお問い合わせは、公式
LINEまたはお電話にてお気軽に
ご連絡ください。

町営塾「じゅうく。」
050-5482-3339
人材育成推進センター
・0880-22-3163



四万十町営塾「じゅうく。」
LINEアカウント



 四万十町営塾「じゅうく。」
Instagramアカウント

「じゅうく。」は生徒がまだ見ぬ自分に出会うきっかけをつくりたいと考えています。勉強も、それ以外のことも、まずはスタッフや友だちと一緒にやってみる。

このコーナーでは、県立篠川高校、県立四五十高校、町営塾「じゅうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介します。

そこに 学校があつた 休廃校の歴史

興津小学校（下）

平成以降に休廃校になった学校を中心に振り返ります。

防災の興津小がスタート

1946(昭和21)年12月21日午前4時19分に発生した昭和南海地震による高知県内の被害は甚大で、県東部や須崎、中村などは壊滅的な被害が出た。興津でも半壊や屋根瓦が落ちてしまった家屋が多数出た。当時のことを記憶されている方が興味深いことを教えてくれた。「東向きの家は無事で、南向きの家の瓦が落ちていた」というのである。搖れの向きによって建物の被害に差が出るということは、あの阪神淡路大震災でも起こったことである。



創立から102年。児童たちで人文字。プールはこの12年後にできる

その昭和南海地震から59年後の2005年。文部科学省から防災教育推進の地域指定を受けた。その時校長は「防災は学校だけの課題ではない。やるなら地域ぐるみだ!そして、一過性の取り組みでは意味がない。災害は、今かもしれないし、数十年後かもしれない。でも必ず来る。だからこそ長続きさせねばならない」そう決意した。

車の両輪のように

早速、地域に呼びかけた。初めは「地震が来たら来た時のこと」と半ば諦めムードだった高齢者たちだったが「生き延びんと復興ができる。死んだらいかんぞ」という言葉を聞き、目の色が変わり始める。そこからだった。学校・地域が一体となって活動が進んだ。当時の校長は言う。「当初から学校と地域の代表が車の両輪のように連携しながら取り組めたことが

大きかった」と。

文部科学省の指定期間が終わってからも、その活動の勢いは続く。「町が予算をつけてくれたことも大きかった」と言うように、学校・地域だけでなく行政も加わった。さらに、大学などの研究機関の参加も力になった。そして何より子どもたちの意欲と活発さが活動を支えた。



児童、保護者、地域住民も含め総勢87名が参加した先進地視察。
「興津の防災」はここから始まった

行政を動かした「子ども目線」

活動の象徴とも言える防災マップ作りは毎年テーマを持って取り組み、その都度何らかの賞を受賞した。制作の過程では、子どもたちが主体となることが大切にされた。子どもたちが地域内を歩いて気づいたことをマップに活かすのである。ある年のマップ作りで、町指定の避難所をチェックして回った時、高齢者などが行きにくい所があることに子どもたちが気づいた。そのことを機に避難場所の再整備が急速に進んだという。子ども目線が行政を動かしたのである。

阪神淡路大震災後に兵庫県が開催している「ぼうさい甲子園」で、複数回の受賞を果たしていることは特筆すべきことで、そのことに光がある。しかし、それだけではない。膨大とも言える取り組みの数々、その全てが興津地区の宝と言えよう。さらに児童たちにとっては、防災のみならず、興津ならではの自然環境の中で活動したことの、あれもこれもが宝物である。



担任づくりは運動会の種目にもなった 防災標語看板の制作・設置



安政初期に全国で起きた震災を見聞した後、この地の近代児童教育の始まりを担った初代校長・浜崎蔵六は、百数十年後の児童たちの活躍ぶりに目を細めているに違いない。

2024年3月、興津小学校の歴史はその幕を閉じた。そこにはいつも子どもたちがいた。そこに学校があった。(おわり)

町のうごき

(10月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,024	-14	男	1	13	12
女	7,564	-20	女	3	16	7
計	14,588	-34	計	4	29	19
世帯数	7,852	-18				(10月中の届出)

窪川地域 10,412人 大正地域 2,014人 十和地域 2,162人